

株主の皆さまへ

第92期中間報告書

(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

東芝機械株式会社
Best Partner of Leading Industries

証券コード：6104

株主の皆さまへ



取締役社長 飯村 幸生

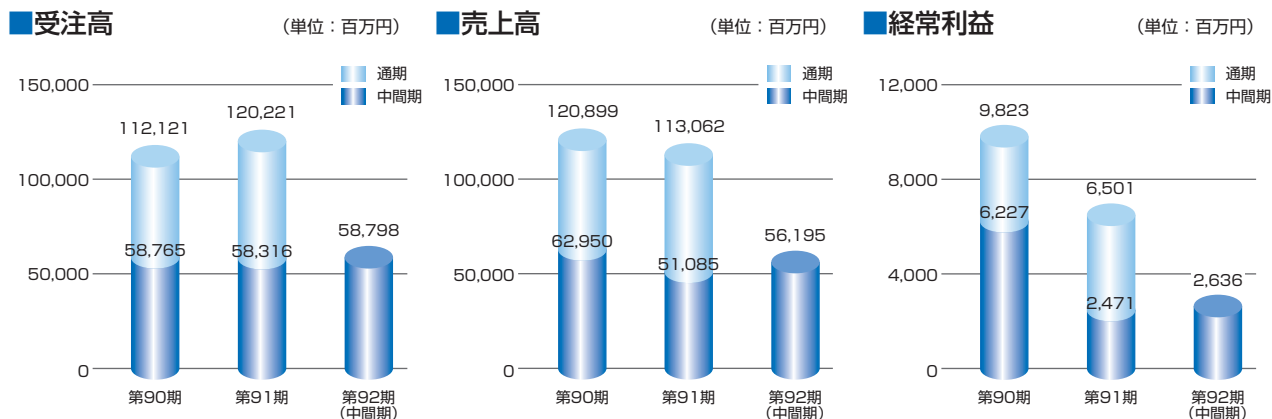
株主の皆さまには、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。
ここに、株主の皆さまへ（第92期中間報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における国内景気は、4月の消費税率引き上げによる消費の落ち込みはあったものの、政府の経済政策や円安の進行による輸出産業の持ち直し等により回復基調にありました。海外の景気は、米国が堅調に回復する一方で、中国、東南アジア等の新興国は軟調に推移しました。

当社グループが属する機械業界につきましては回復傾向を示している中、対象とする市場や製品により景況感に差異が生じております。

このような経済環境のもとで、当社グループは中期経営計画「TM AC Plan Advanced II」（Toshiba Machine Adapt to the Change Plan Advanced II）を平成26年4月1日からスタートさせ、前連結会計年度に続き「先進と拡張」を基本コンセプトとして諸施策を実行し、国内外市場向けの新商品開発、新市場の開拓、受注の確保、財務体質の改善等に全力をあげグローバルなブランド力の向上に取り組んでおります。

決算ハイライト



当第2四半期連結累計期間の売上高は、561億9千5百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益は、20億6千6百万円（前年同期比28.8%増）、経常利益は、26億3千6百万円（前年同期比6.7%増）、四半期純利益は、16億5千万円（前年同期比46.7%増）となりました。

今後の経済環境は、米国経済の堅調と国内経済の緩やかな回復が期待されるものの、為替の変動、原材料費の高騰や一部新興国の成長鈍化など先行き不透明な状況が続くと予想されます。

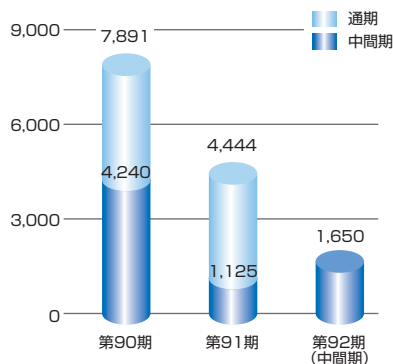
このような経営環境のもとで、国内外企業との競争激化など厳しい事業展開が想定されますが、当社グループは、有望な新市場の開拓、市場ニーズにあった新製品の投入、生産の効率化と最適調達によるコスト競争力の一層の強化によりグローバル市場でのブランド力を高め、収益確保に努めてまいります。

また、ISO9001・14001をベースとした品質・環境管理の徹底等に注力し、当社グループの将来を担う人材の育成ならびに法令遵守、社会貢献など企業の社会的責任活動にも積極的に取り組んでまいります。

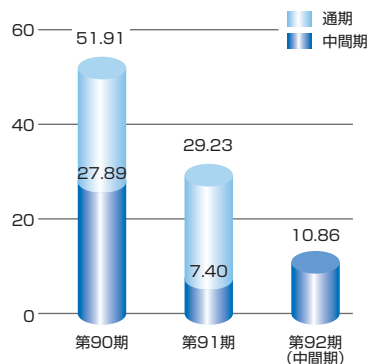
株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月

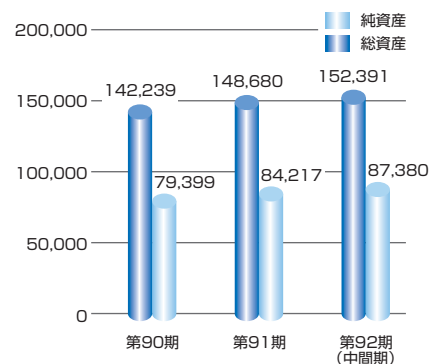
■ 中間(当期) 純利益 (単位：百万円)



■ 1株当たり中間(当期) 純利益 (単位：円)



■ 総資産／純資産 (単位：百万円)



事業別の概況

成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

射出成形機は、国内の自動車・住設関連業界向けや海外の自動車・医療・ICT関連業界向けに堅調な販売を維持しました。利益につきましては、国内外メーカーとの競争激化の影響を受けましたが、一層の原価低減に向けた施策をグローバルに推進しています。受注につきましては国内・北米の自動車関連業界向けを中心に引き続き堅調に推移しています。

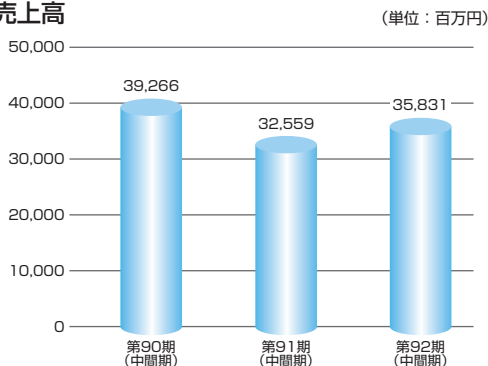
自動車・二輪車関連業界向けを主な供給先とするダイカストマシン

は、国内・中国を中心に、引き続き堅調な販売と受注を維持しています。

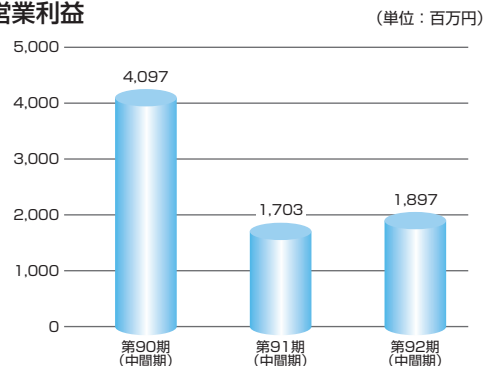
押出成形機は、国内・韓国での需要低迷が続きましたが、光学関連業界や容器・包装向けのシート・フィルム製造装置の販売がありました。

この結果、成形機事業全体の売上高は、358億3千1百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益は、18億9千7百万円（前年同期比11.4%増）となりました。

■売上高



■営業利益



工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

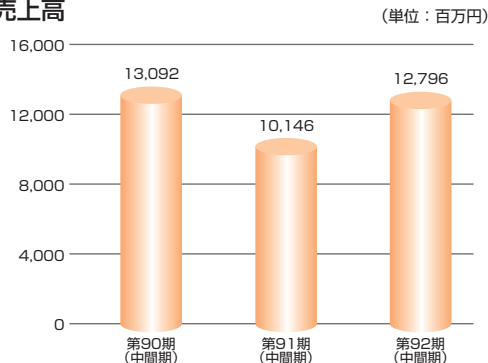
工作機械は、国内の設備投資が増加基調にある中、産業機械用部品加工関連業界向けを中心に販売が回復しました。受注環境につきましては国内に加え、中国の自動車・金型関連業界向けを中心として増加基調で推移しています。

精密加工機は、国内デジタル家電メーカーの設備投資の抑制が続い

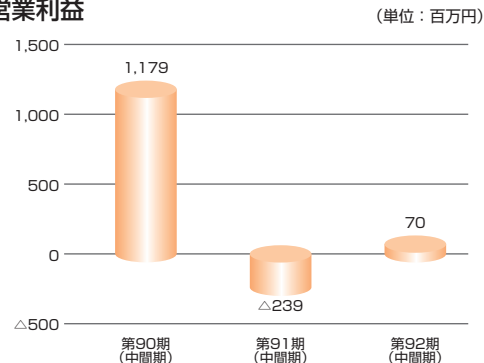
ていますが、中国および台湾を中心としたスマートフォン関連製品の金型業界向け等の需要があり、受注は堅調に推移しています。

この結果、工作機械事業全体の売上高は、127億9千6百万円（前年同期比26.1%増）、営業利益は、7千万円（前年同期は営業損失2億3千9百万円）となりました。

■売上高



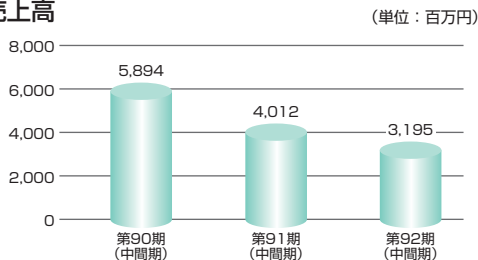
■営業利益



油圧機器事業

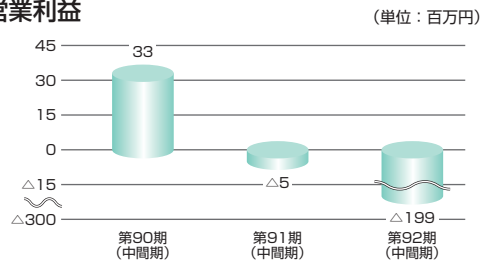
建設機械向けを主な供給先とする油圧機器は、国内建設機械メーカー向けの販売は堅調に推移したものの、海外の最大の市場である中国における建設機械の需要の低迷により、厳しい事業環境が続いています。

■売上高



この結果、油圧機器事業の売上高は、31億9千5百万円（前年同期比20.4%減）、営業損失は、1億9千9百万円（前年同期は営業損失5百万円）となりました。

■営業利益



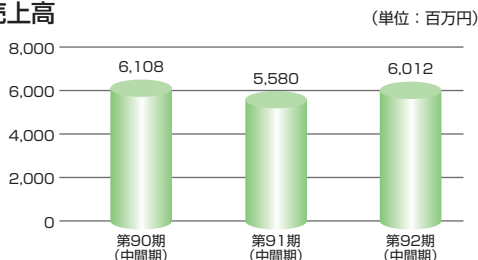
その他の事業（電子制御装置など）

国内外で自動車関連業界等の自動化関連設備向けとして産業用ロボットやサーボモータ等の販売が、堅調に推移しました。

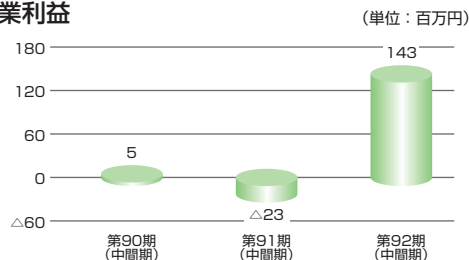
この結果、その他の事業全体の売上高は、60億1千2百万円（前年

同期比7.7%増）、営業利益は、1億4千3百万円（前年同期は営業損失2千3百万円）となりました。

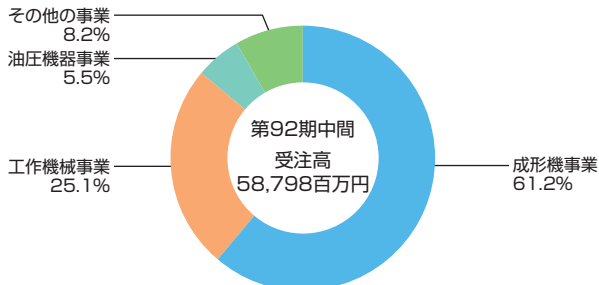
■売上高



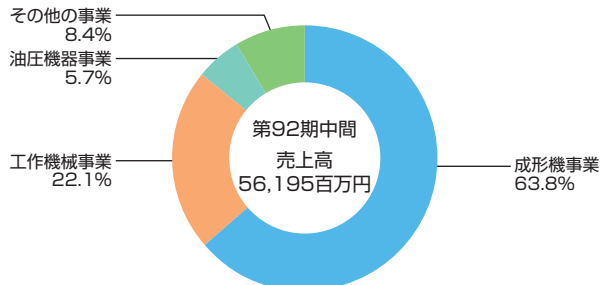
■営業利益



事業別受注高構成比率



事業別売上高構成比率



連結財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第92期中間期 (平成26年9月30日現在)	第91期 (平成26年3月31日現在)	科 目	第92期中間期 (平成26年9月30日現在)	第91期 (平成26年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	114,418	111,476	流 動 負 債	49,534	47,326
現金及び預金	21,204	21,779	支払手形及び買掛金	26,349	24,675
受取手形及び売掛金	38,877	37,951	短期借入金	11,284	11,296
有価証券	20,000	19,500	未払法人税等	1,585	368
商品及び製品	7,176	6,272	未払費用	4,722	5,349
仕掛品	22,044	20,970	製品保証引当金	540	694
原材料及び貯蔵品	72	75	その他の流動負債	5,051	4,941
繰延税金資産	3,192	2,898	固 定 負 債	15,476	17,136
その他の流動資産	2,027	2,206	長期借入金	5,300	5,300
貸倒引当金	△ 178	△ 177	長期未払金	8	8
固 定 資 産	37,973	37,203	繰延税金負債	1,639	1,410
有 形 固 定 資 産	21,058	21,108	役員退職慰労引当金	37	39
建物及び構築物	10,039	10,369	退職給付に係る負債	8,393	10,278
機械装置及び運搬具	2,570	2,668	資産除去債務	46	46
土地	6,462	6,471	その他の固定負債	51	52
リース資産	81	81	負 債 合 計	65,011	64,463
建設仮勘定	1,291	1,012	純 資 産 の 部		
その他の有形固定資産	612	505	株 主 資 本	84,327	81,363
無 形 固 定 資 産	3,572	3,667	資 本 金	12,484	12,484
の れ ん	3,038	3,128	資 本 剰 余 金	19,600	19,600
その他の無形固定資産	533	538	利 益 剰 余 金	62,284	59,319
投 資 そ の 他 の 資 産	13,342	12,428	自 己 株 式	△ 10,042	△ 10,041
投資有価証券	12,513	11,560	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	3,052	2,853
長期貸付金	72	78	その他有価証券評価差額金	3,065	2,648
繰延税金資産	67	59	為替換算調整勘定	1,189	1,601
その他の投資	754	786	退職給付に係る調整累計額	△ 1,202	△ 1,396
貸倒引当金	△ 64	△ 56	純 資 産 合 計	87,380	84,217
資 産 合 計	152,391	148,680	負 債 ・ 純 資 産 合 計	152,391	148,680

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第92期中間期	第91期中間期
	(平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
売 上 高	56,195	51,085
売 上 原 価	40,741	36,613
売 上 総 利 益	15,453	14,471
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	13,386	12,866
営 業 利 益	2,066	1,604
営 業 外 収 益	1,227	1,421
営 業 外 費 用	657	554
経 常 利 益	2,636	2,471
特 別 利 益	5	7
特 別 損 失	7	14
税金等調整前四半期純利益	2,634	2,464
法人税、住民税及び事業税	1,298	414
法 人 税 等 調 整 額	△ 314	924
少数株主損益調整前四半期純利益	1,650	1,125
四 半 期 純 利 益	1,650	1,125

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第92期中間期	第91期中間期
	(平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,931	2,545
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 942	△ 601
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 564	△ 1,315
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 499	1,267
現金及び現金同等物の増減額	△ 74	1,895
現金及び現金同等物の期首残高	41,279	38,327
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	1,229
現金及び現金同等物の四半期末残高	41,204	41,452

連結財務諸表のポイント

資 産

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ37億1千1百万円増加し、1,523億9千1百万円となりました。増加の主な内訳は、仕掛品が10億7千4百万円、受取手形及び売掛金が9億2千6百万円、商品及び製品が9億4千万円増加したこと等によります。

負 債

負債は、前連結会計年度末に比べ5億4千8百万円増加し、650億1千1百万円となりました。増加の主な内訳は、退職給付に係る負債が18億8千5百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が16億7千4百万円、未払法人税等が12億1千7百万円増加したこと等によります。

純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ31億6千3百万円増加し、873億8千万円となりました。増加の主な内訳は、利益剰余金が29億6千5百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は57.3%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ7千4百万円減少し、412億4百万円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、19億3千1百万円の増加になりました。これは主として、たな卸資産の増加19億7千4百万円等の支出はあったものの、税金等調整前四半期純利益26億3千4百万円、仕入債務の増加16億7千4百万円等の収入があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、9億4千2百万円の減少になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出8億2千万円等があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、5億6千4百万円の減少になりました。これは主として、配当金の支払額6億8百万円等があったことによります。

■メキシコ支店（TOSHIBA MACHINE CO.,AMERICA）が本格稼働

近年のメキシコでの自動車生産の急増に合わせ、同国内陸部を中心に日系企業（主に自動車メーカーやサプライヤー）の進出が拡大しており、また、ローカル企業の設備投資意欲も旺盛で、今後の設備投資が見込めることから、同国中央高原の工業都市レオン近郊のシラオ市に、当社の現地法人TOSHIBA MACHINE CO.,AMERICAのメキシコ支店が4月より本格稼働いたしました。

現在は4名体制でサービス業務を主体に活動を展開しております。今後は、サービスサポート強化を基盤に、日系・ローカル企業への設備拡張や当社製品の拡販に努めてまいります。



メキシコ支店が入居している建屋外観

■東芝機械グループソリューションフェア2014開催

今年も5月22日（木）から24日（土）までの3日間、当社グループが総力を挙げて取り組んでいる「東芝機械グループソリューションフェア2014」を沼津工場（本社）および御殿場工場で開催いたしました。

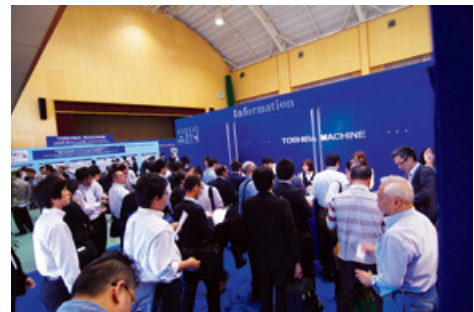
第12回目となる今年も会期中は好天にも恵まれ、過去最高となる5,504名のお客さまにご来場いただきました。

今回のフェアのコンセプトは、昨年に引き続き「“先進と拡張”最適ソリューションの提供 ～そのチカラは、いつもあなたの近くに～」とし、各種成形機、工作機械、精密機器、油圧機器などの製品と、鋳造・機械加工、レトロフィット・アフターサービス、およびそれらをインテグレートするシステムエンジニアリングなど、当社の豊富なラインナップから生み出される先進技術や新製品を余すところなく展示し、生産性の向上や省エネをテーマとした商品開発への取り組みをご覧いただきました。

また、外部講師をお迎えしての特別セミナーには、毎回多くのお客様が来場され好評を博しました。

当社グループのPR活動が功を奏し、会期中は多数の引き合い、ご成約をいただくことができ、盛況のうちに終わることができました。

今後も、販売およびサービスの充実、グローバル化の推進、成長市場への深耕に更なるスピード感をもって取り組み、当社グループの最大の強みである幅広い分野での提案によりお客様の利益の最大化に貢献してまいります。



沼津工場（受付）の様子



御殿場工場の様子

■材料加工事業部が第18回機械要素技術展に出展

6月25日（水）から27日（金）に東京ビッグサイトで開催された第18回機械要素技術展に当社の材料加工事業部が出展しました。

本展示会では、当社が鋳物の生産から機械加工、熱処理、塗装までを一貫生産できることをPRし、更なる受注の拡大を図ることを目的に3年連続で出展しています。

今回は、鋳型断面の立体縮小モデルで溶湯の流れを説明すると同時に、実際の鋳造の映像を流し大物・長物鋳物を得意としていること、加工では大型ねじれ形状の加工品を展示し、大物加工や精密加工を得意としていることをPRいたしました。

会期中にお寄せいただいたご質問や具体的な引合いに対しては、早速お客様を訪問し、ご要望にお応えしております。



第18回機械要素技術展の様子

■日刊工業新聞社主催 第44回機械工業デザイン賞を受賞（立旋盤TUE-100）

当社が昨年4月に発売した「立旋盤TUE-100」が、このたび日刊工業新聞社主催「第44回機械工業デザイン賞」にて、「審査委員会特別賞」を受賞しました。

本賞は主に生産財を対象として、外観、機能、性能、色彩など様々な要素を総合的に判断して評価されるものです。今回の受賞は、

<機能面>

大型ワーク対応機の開発実績を踏まえて、優れた重切削能力（クーラント圧7MPa下におけるインコネル加工で従来比2.4倍の1.2mm/rev）を実現

<造形面>

- 1) 必要移動量を確保した「ウォール型コラム/ヨコケタの一体構造化」による、効率の良い空間設計の実現
- 2) 色彩面ではベース部（ベッド）のブラックは安定感表出に一定の効果を果たし、ブルーにカラーリングされた全閉式カバーは機械高を誇張する存在感を示している。

等から、総合的に機械性能という点で高い完成度であると評価されました。

当社グループは、今後開発される機械においても、機械性能の向上とともに、デザイン性を備えた製品づくりに取り組んでまいります。



立旋盤TUE-100

会社の概況 (平成26年9月30日現在)

(1) 商号

東芝機械株式会社
(TOSHIBA MACHINE CO.,LTD.)

(2) 所在地

東京都千代田区内幸町2丁目2番2号

(3) 創業

1938年(昭和13年)12月

(4) 設立

1949年(昭和24年)3月

(5) 資本金

124億8千4百万円

(6) 従業員数

連結：3,475名(前期末比21名増)

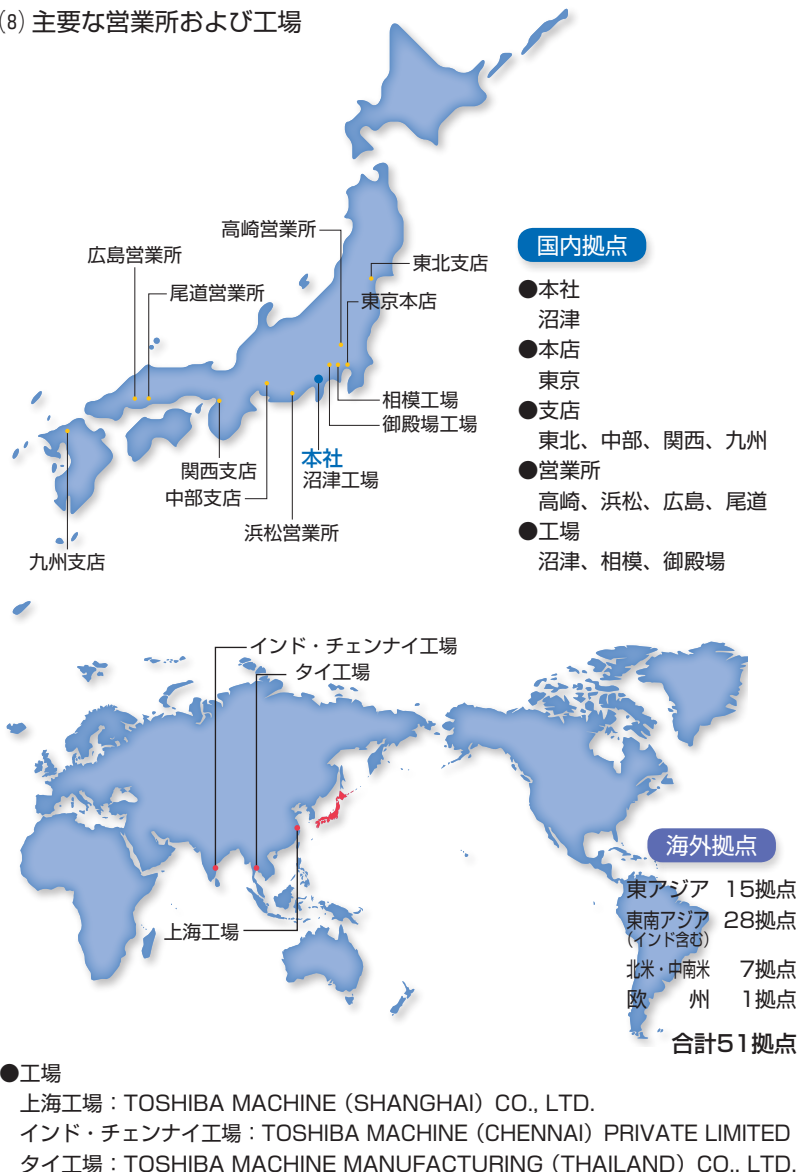
単独：1,861名(前期末比2名増)

(7) 役員(平成26年12月1日現在)

代表取締役社長	社長執行役員	飯村幸生
代表取締役	専務執行役員	岸本吉弘
取締役	常務執行役員	広中哲友
取締役	常務執行役員	坂元繁幸
取締役	常務執行役員	八木正夫
取締役	執行役員	高村和夫
取締役	執行役員	伊東克雄
取締役	執行役員	三上高弘
社外取締役	秋山寛弘	
社外取締役	小倉良弘	
常勤監査役	牧野輝幸	
常勤監査役	綿屋慎介	
常勤監査役	辻谷和生	

(注) 常勤監査役 牧野輝幸、監査役 谷川和生の両氏は社外監査役であります。

(8) 主要な営業所および工場



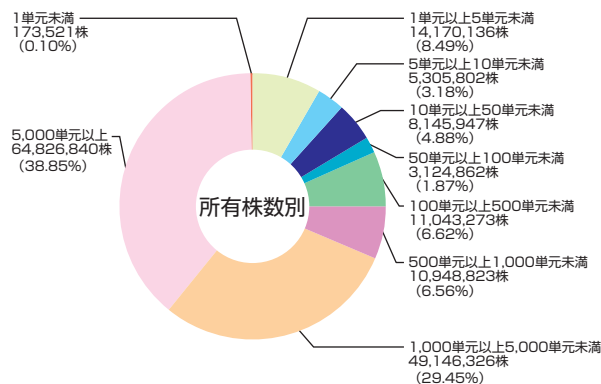
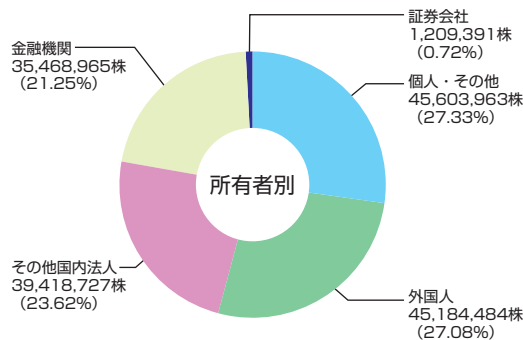
株式の状況 (平成26年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 360,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 166,885,530株
(自己株式14,858,573株含む)
- (3) 株主数 11,514名
(前期末比338名増)
- (4) 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社東芝	33,545千株	22.07%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	8,253	5.43
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	8,170	5.37
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	4,274	2.81
J U N I P E R	4,002	2.63
RBC ISB A/C DUB NON RESIDENT-TREATY RATE	3,000	1.97
株式会社静岡銀行	2,980	1.96
東芝機械取引先持株会	2,697	1.77
株式会社三井住友銀行	2,682	1.76
トヨタ自動車株式会社	2,420	1.59

(注) 1. 当社は、自己株式を14,858,573株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(5) 株式の分布状況



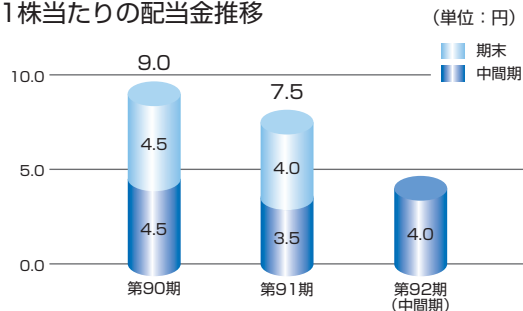
利益還元に関する基本方針

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。

また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化とともに、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に勘案し、生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していく予定であります。

なお、当期中間配当金につきましては、1株につき4円とさせていただきます。

1株当たりの配当金推移



ホームページのご紹介



東芝機械ではホームページによる情報開示を積極的に行なっております。財務情報や最新ニュースをはじめとするIRサイトも掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行なっております。

<http://www.toshiba-machine.co.jp>

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会については3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
- 期末配当基準日 毎年3月31日
中間配当基準日 毎年9月30日
公告掲載新聞 日本経済新聞
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国各支店でを行なっております。
- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
 - ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

